

令和6年度 第4回社会教育委員会会議 会議録

開催日時	令和6年11月22日 金曜日 13時30分から15時30分まで
開催場所	二宮町生涯学習センターラディアン ミーティングルーム1
出席者	和田智司教育長、久保田秀実委員長、橋本由恵副委員長、 関口金由紀委員、中西美保委員、三宅栄子委員
欠席者	稲葉通隆委員
事務局	椎野教育部長、山下生涯学習課長、二見生涯学習班長、 井上スポーツ推進班長、込山図書館班長、石坂副主幹
その他	傍聴者0名

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 題

(1) 生涯学習課事業報告について

(委員)

20歳のつどいの実行委員はどのようなメンバーか

(事務局)

二宮中学校、二宮西中学校に依頼し、今年度20歳となる方について両校から推薦をいただき、組織している。今年度は30名程度である。

(委員)

公立のみか。

(事務局)

推薦依頼は公立のみである。

(委員)

11月16日の「にのっこデイキャンプ」にスタッフとして参加したが、当日はなるべく子どもたち主体で、大人はできるだけ口を出さずに、子どもたちに考えてもらおうという方針がスタッフの間で共通認識としてあった。

内容は、子どもたちが火を起こして飯盒炊飯やカレー作りなどを行った。班付けスタッフとして活動した感想として、子どもたちの力は本当にすごいと感じた。3校の子どもたちが混ざった班編成だったが、大人が口を出さなくても自分の役割を

果たし、手が足りないところがあれば手伝ったりと、主体的に行動している姿が見て取れ、他のスタッフからも良い取り組みだったという感想があった。

(委員)

これは希望者が参加する形か。

(事務局)

今回の事業は小学6年生が対象であり、町立3小学校には対象者分のチラシを配布した。

この事業は、以前は2泊3日でキャンプに行っていたが、コロナにより事業が縮小し、実施出来ていなかった。昨年3年ぶりにデイキャンプとして南足柄市で行い、今年度は町内の東大果樹園跡地に場所を変えて実施している。

(委員)

アンケートはとるか。

(事務局)

主催である子ども会育成会連絡協議会が行う。

(委員)

報告を見ると、100人定員のところ48人の参加があったとのことだが、事務局の印象としてはどうか。

(事務局)

人数だけで見ると少ないと感じるが、現場で見た感想として、実際の子どもたちやそれを見守る大人たちの活動状況を見ると、ちょうど良い人数だったと感じている。

子どもたちも忙しく、昨年デイキャンプで南足柄市に行った時も同規模の人数であり、今回の参加者の内、別に所属しているスポーツクラブの練習が終わった後、遅れて参加した子どももいた。

運営面では、スタッフの進め方も上手で、各班の一人一人に役割を与えており、手持無沙汰で遊んでしまう子がおらず、飯盒炊飯も各班うまくいっていた。

防災の観点からは、二宮町は日中仕事で大人がいないため、中学生の活躍ということはよく聞くが、小学6年生もとても頼りになると感じた。

(委員)

付け加えると、飯盒炊飯だけではなく、竹での炊飯も行い、こちらも各班成功し

ていた。子どもからは、家でもやりたいという感想もでていた。

(委員)

こういう技術を伝えられるということも素晴らしいことだと思う。人材が育っているのだと思う。

(委員)

民俗芸能のつどいが 50 回を迎え、記念品を作成したとのことだが、こういったものを作成したのか。

(事務局)

祭囃子の団体が多いということで、お祭りの際に首から下げる木札を作成した。片面に「第 50 回二宮町民俗芸能のつどい」もう片面には参加団体名を入れている。

(2) 令和 7 年度社会教育事業について

(委員)

幼児体力テストは、スポーツフェスティバルで行うのか。

(事務局)

今年度はスポーツ協会でも実施したが、それとは別にスポーツ推進委員の主催で、2 月に 2 時間程度町立体育館で行う予定である。

テニスボールを投げたり、走ったりして記録をとり、参加年代の全国平均値も示す。スポーツフェスティバルが 10 月に行われており、その半年後に行うことで、成長が目に見える形になると考えている。

(委員)

運動能力として考えると、その時期から他人と比べることが始まってしまう。この年代は成長の幅も個人でだいぶ異なり、その差を保護者は気にしてしまいがちである。

心配し過ぎかとは思いますが、スポーツを勧めることも重要なので、そこが強調されすぎないように、注意してもらえるとありがたい。

(事務局)

県でもファミリー体操などを広める取組をしている。町としても、スポーツを強く勧めるというより、体を動かすきっかけになれば良いと考えている。

(委員)

イベントの内容は良いと思う。タイトルが「テスト」だと保護者で躊躇してしまう方もいるかもしれないので、「チャレンジ」などにすると、表現が柔らかくなると思う。

(委員)

スポーツフェスティバルで行った時には「体力測定」という名称だったかと思う。

(事務局)

県の名前は「すくすくチャレンジ」。今回のイベントも他の参加者と比較をするわけではない。

(委員)

全国の基準が会場に示されていると、そことの比較になってしまうと思う。

(委員)

幼児教育は、幼稚園教育要領も保育所指針も「遊びから学ぶ」ということをうたっており、遊びから意欲を育てる・楽しむことが全国的な狙いになっている。テストや測定よりも、この狙いを含んだ、きっかけづくりになると良い。

(委員)

幼児期にやると良い遊びという形で紹介できると良い。保護者もどんな遊びをさせたら子どもが成長していくか分からない方も多いと思うので、それを知るきっかけとなる内容になると良いと思う。

(委員)

この時期は、保護者も大変な時期だと思うので、他の保護者とのかかわりが持て、一息つけるような場ともなると良いと思う。

(事務局)

イベントタイトルは検討する。

(委員)

基準値との比較よりも、「ぶら下がれた」や「ボールを投げられた」など、何が出来るということに主眼を置いた調査にできると良いと思う。

(委員)

町立体育館の会議室にエアコンを設置するとのことだが、夏の気温も上昇しており、体育室へのエアコン設置も考えた方が良いのではないかな。

(事務局)

議会でも話は出ているが、予算との兼ね合いもある。夏は危険な暑さもあるため、町立体育館については、熱中症対策としてスポットクーラーを設置した。

今後学校の統廃合なども関わってくるため、全庁的に検討していくこととなる。

(委員)

放課後子ども教室についてだが、学校から帰らず、そのまま友達と遊べる場ということで、この事業はとても大事だと感じている。来年度は回数の増加と親子で参加できる休日の実施も検討しているということで、更に回数が増やせるようにしてもらいたい。

大磯町も学年ごとに分かれているようだが、回数は多く実施している。どのように運営するかや、スタッフの確保など課題はあると思うが、中心となっている地域学校協働活動推進員や関わっているスタッフとも相談しながら、どういった形であれば続けていけるか。また生涯学習課の負担も大きいので、どのように簡素化したり効率化すれば、更に子どもの居場所を増やしていけるかを考えていって欲しい。

(委員)

放課後子ども教室はとても大事な場だと思う。今の子どもは町の中で遊べる場所がない。また、保護者の目も行き届かないところがある。

前回の会議で事業を見学させてもらったが、サポーターとして、高齢者の団体にも声をかけ、参加してもらっても良いと思う。

(委員)

スタッフが沢山いると良いと思うが、先ほどの子ども会事業でもそうであったが、「大人はあまり口や手を出さない、子ども自らが考える」という姿勢を学校教育も含めて大事にしている。放課後子ども教室も子どもが主体的・協働的な活動から深い学びの場となると良いと考えるので、スタッフが共通認識を持つことが重要である。

にのみや子ども自然塾では、子どもの遊びとはどういうものか、リスクとハザードについての研修を行う計画である。放課後子ども教室のスタッフや青少年指導員にも参加してもらえれば、徐々に共通認識を形成していけると考えている。

(委員)

町からも県などの研修の案内をもらうが、場所の都合もあり中々参加できない。町内でできる研修であれば、参加しやすくなるだろうし、関わる方が増えていろいろな価値観に触れるのもありだが、最低限の共通理解はあったほうが良いと思うので、町独自の研修も入れていってもらいたいと思う。

(委員)

子ども会の今後についてと、テニスコート清掃に係る業務を職員が行うということで、事業を継続しながら、職員の負担について心配なところがあるがいかがか。

(事務局)

子ども会育成会連絡協議会（以下、「子育連」）については、多い時で、18の単位子ども会（以下、「単子」）が加盟していた。コロナ禍に入り活動が縮小しており、子育連本部への役員派遣について負担という意見や、単子の活動ができなくなっているというところもあり、子育連からの脱退や単子自体を解散する地区もあり、その後の対応は様々である。

テニスコートの清掃については、雨水が残っている内に清掃を行えば2～3時間程度で作業が終わる。業者に委託した場合、契約事務や日程調整で作業に2～3週間かかってしまう。その時間と、作業までの間に入っている利用予約への対応を考えると、職員が行った方が、結果としては良いと考えている。

(委員)

例えば、そういう時のために消防団に協力を要請できる関係づくりが出来るとよい。

(事務局)

テニスコートが満水になるときは、街中にも被害が出ている場合もあり、消防団はそちらの対応となる。

費用対効果や町民サービスを考えながら行っており、この作業も高圧洗浄機を購入したため対応が出来ている。

(委員)

愛のパトロールについて、以前の19時頃から夕方に実施時間を変更したのは良いと思う。ただ、非行という点で考えると、深夜の時間帯のカバーも必要かと思う。パトロールされる方の負担もあるが、そういったことも含めて検討を続けてほしい。

(委員)

あまり時間が遅くなると、パトロールをする側の危険もあるため、慎重に検討していったほしい。

(3) 社会教育関係団体の補助金について

(委員)

青少年指導員については、地域から選出され、地域活動するのが本来の形なのだと思う。事務局が考える補助要綱の改正は、特定のリーダーとなる子どもたちだけではなく、地域の子どもたち全体を見るという形にすることか。

(事務局)

その通り。

(4) 放課後子ども教室の実施状況について

(委員)

地域学校協働活動推進員もそうだが、生涯学習課の負担もあると思う。生涯学習課として、改善したいと感じているところはあるか。

(事務局)

負担としては、出欠の管理がある。参加者名簿は前日までに学校や学童に送付しているが、当日急遽欠席する場合は、保護者から連絡をいただき、生涯学習課で出席名簿と照らし合わせて、学校や学童に連絡を行う。

また、当日参加予定の児童が会場に来ていない場合、保護者に確認の連絡を取っており、出欠管理については、生涯学習課、保護者双方に負担が出てきている。

(委員)

ICT もうまく活用できると良い。

(事務局)

イメージとしては毎週何曜日という形にできれば、出欠管理はそこまで必要はないと考えている。ただ、学校との話し合いもある。また、町の LINE が始まったため、そこをうまく活用していくつもりでいる。

放課後の回数は増えた方が良いという声は多くいただくため、どういう形で実施するのが良いか検討していく。

(委員)

自分が参加している一色小学校は、人数が少ないとは言え、学校・学童・放課後スタッフが持つ参加名簿が食い違っていたり、子どもが違うことを言ったり、参加予定の子どもが来ないということがあり、まずそこの対応に追われてしまう。個人情報のため、緊急連絡先は生涯学習課しか持っておらず、現場に来ている職員が生涯学習課と連絡をとり、対応することとなる。そうすると、この対応に 30～40 分かかることもあり、考え方が難しいが、所在確認にすごく手間がかかっていると感じている。

また、保護者の中からは、登録の方法が分からないという声も聞こえるため、そのハードルを下げたい。さらに、たまにしかないことのため、欠席連絡を忘れてしまう方もいるし、やり方やどこに連絡すれば良いかも分からないという声も聞く。

私は現場に来ている職員に子どもたちともっと関わってもらいたいと考えているため、こういったところで時間がかかってしまうのはもったいないと感じている。

(委員)

難しいことと思うが、「ここまでしかできない」など保護者とうまく共通認識を持つことが大事だと考える。

(委員)

基本的な所を確認したいが、放課後子ども教室は、誰でも参加できるのか。

(事務局)

登録してもらえれば、誰でも参加できる。学童と違い保育ではなく、読書やサッカー、昔遊びなど子どもたちが自由に過ごせる場となっている。

(委員)

一番のメリットは学校から帰らずに遊べるという所だと思う。移動にタイムロスがなく安全であるという所がある。ただ、そこで参加予定の子どもがいなくなる、先ほどの所在確認の話になる。

出席管理をどこまで行うかという議論になってくるが、保護者の考え方と子どもの自主性のバランスが難しい。

(委員)

学校の立場で話をすると、下校して家に着くまでは学校が責任を持たなければいけないというところがある。途中で放課後子ども教室があるため、どっちに行っているかというところは把握したい。欠席予定の子どもが参加するのは良いが、反対に参加予定の子どもがいないと、どこに行ったか分からなくなるのが怖い。放課後

子ども教室が一回家に帰ってから参加ということであれば保護者の責任だが、帰宅前ということになると、学校も無関係という訳にはいかない。

運営の話でいうと、県の研修で話を聞いた中で、二宮町のように役場が直営で行う形と、団体に委託して行っている形がある。規模も違うため、参考になるかは分からないが、検討していても良いと思う。

(委員)

推進員でも地域の方や保護者に見守りのサポーターの声かけをしているが、先ほど話のあった高齢者の団体のように、いろんな方が得意なことを活かしていただけると、子どもたちも楽しめると思う。

保護者も何人かサポーターとして入っているが、子どもが事業に参加しているかや、子どもの卒業など事情は変わりやすいので、コンスタントには参加が難しい。

更には、この活動を通じて事業の核となるような方も育ってくれれば良い。

生涯学習課は毎回用具を持ち運びしており、大変だと思う。

(委員)

プログラムの内容を検討しても良いと思う。イベント的なことがある回や、自由に遊ぶ回など、毎回荷物を運ばなくても良いようにすれば、回数も増やしやすくなるかもしれない。

(委員)

自分も音楽をやっているので、お手伝いできることもあるかもしれない。

(委員)

実施主体としては、安全確認と安全確保は欠かせないと思う。事務負担の部分とは相反するところもあるかと思うので、うまくすり合わせて、より良い方向に進めてもらいたい。

(委員)

前回見学した山西小学校は、利用している教室の場所が離れているので、もったいない気がしている。セッティングも大変だと思うし、もう少しコンパクトにできると良いと感じた。

放課後子ども教室は推進員とサポーターが生涯学習課のもとで実施しているが、今年度子どもたちに「放課後子ども教室はなんのために実施しているか」を投げかけ、内容のリクエストボックスを置いてみた。運営そのものもこちらが考えるだけでなく、子どもたちの声を取り入れて実現していくのも良いと思う。

(5) 教育委員会表彰について（非公開）

(6) その他

- ・ラディアンリニューアルについて（非公開）
- ・県社教連地区研究会（海老名会場）報告

4. 閉 会